



是は常に犬笠懸などにはくむかばき也、長さは人のたけによりて、みよき程にきるべし、別目と
 じめの事は、引目の大小によりて、前へも後へもよるべし、緒の革の事、菖蒲革本也、黒皮ふすべ革
 などをつくること略儀也、はれの犬などには、黒革ふすべ革をに付たるむかばきはく事不有又
 くつごみのを、は三所に可付、但大なるむかばきには四所に付べき也

一御所様の御むかばきのを、は紫革爲べし、御むかばきの裏を、あやなどを色々に染てうたせら
 る、也、又しゆす段子など、から物にてうたせらる、也、又裏をうたざるをもめさる、也、
 一むかばきの腰の事、一寸ちがは、かりむかばき一寸あかばかり行騰といへり、是はうしろの
 ちがふほどらひの事なり、五分ばかりちがふたるがよきなり、前は二三寸あきたるがよき也、
 略

行騰種類

〔令義解^六衣服〕武官禮服

衛府督佐、兵衛佐不在此限、略、中、錦、行騰、略、下

〔尺素往來〕行騰、大星之夏毛者、若々敷候、陰^{クモリ}星之秋二重毛候者、拜領仕度候霜臺、廷尉者熊皮、尋常之
 事候歟、